

第23回さの秀郷まつり

8月8日・9日の両日、佐野駅前通りなどを会場に行われ、多くの方がお祭りを楽しみました。

8日は城東中学校で、秀郷流流鏝馬が開催。藤原秀郷公が弓の名手だったといわれていることから行われているこの流鏝馬では、10人の旗手たちがつぎつぎと馬で駆け、馬上から弓を放ちました。縦横30センチ程度の的に弓が見事に当たると、会場の観客からは大きな歓声が上がりました。

また、初日の夜に行われた市民総おどりでは約1,100人が参加し「華のひでさと」や「さのまる音頭」を踊りました。

翌9日にはみこし・お囃子の巡行が行われ、計10基が駅前通りを勇壮に練り歩きました。

このほかにも両日、駅前ステージでのライブや、城山ステージでのステージイベント、また9日は佐野ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさんのミニライブなどが行われ、2日間に渡ってお祭りが楽しまれていました。



第39回たぬまふるさと祭り



8月2日、市民病院北西の市道を歩行者天国として、たぬまふるさと祭りが開催されました。

猛暑の日中は、「たぬまの水で地球を冷やせ!」をテーマに、水風船による「水合戦」が小学生の部と大人の部でそれぞれ開催され、小学生の部では全22チームがトーナメント方式で熱い戦いを繰り広げました。

道路に設けられた特設ステージでは、たぬま太鼓などが披露されたほか、雨がぱらついてきた夜には約300人による「どまんなか総踊り」などが行われ、地元の方が集まり大きな盛り上がりを見せました。

第22回三義山大文字焼き



8月15日、三義山の西側斜面に大きな「大」の字が浮かびました。

今回は栄町の工業団地会館付近に特設ステージが設けられ、点火に先駆けて、ご当地アイドルなどが出演し、会場を盛り上げました。

午後7時に点火されると、さの秀郷太鼓保存会の皆さんの演奏の中、縦80m・横60mの大の字がゆっくりと浮かび上がり、集まった方々から歓声が上がりました。

この大文字焼きの実現には、佐野松桜高校ラグビー部の皆さんなど、多くの方にお手伝いいただいています。ご協力ありがとうございました。



市民病院市民講座
「安心・安全な腹腔鏡手術」

7月15日、佐野市民病院の橋本大定院長から腹腔鏡手術について、分かりやすく解説していただきました。

今年4月に佐野市民病院に院長として赴任された橋本医師は、腹腔鏡手術の「腹壁吊り上げ法」を考案され、その手術に伴う医療機器も独自に開発されています。これまで海外のメディアで紹介されたり、その手法を学びたいとの要請を受け、世界各国で実演・指導をされてきました。

今回の講座では、昨今のニュースでも取り上げられた「腹腔鏡手術」の死亡事例なども率直に、患者の立場でお話しいただきました。

会場の市民病院には、100名を超える参加者があり、皆さん熱心に聞き入っていました。こうした市民病院の講座が、今回で96回も開催されていることに驚きました。また参加したいと思います。(市民記者 永倉文子)

クリケットの全国大会
「2015 U-15選手権」で優勝



市内の児童・生徒で構成されたクリケットチーム・北関東ブレイブスが、7月に静岡県富士市で行われた「2015 U-15選手権」で初優勝を飾りました。

全国から8チームが参加し争われたこの大会で、北関東ブレイブスは、予選で昨年優勝の上宮A(大阪)など3チームに勝利。決勝では昨年準優勝だった千葉マイワイズ(千葉)と戦い、接戦の末、見事初優勝を飾りました。

大会のMVPに佐野高付属中1年の本島雅大選手が選ばれ、ベストボーラーとして石塚小の小寺仁真選手が選ばれました。またこの2選手と石塚小の須藤零士選手、佐野日大高校の五箇大陸選手の計4選手がベストイレブンに選ばれました。

オーストラリア・ラグビー協会の
現役コーチが高校生を指導

2019年に日本で行われるラグビーのワールドカップ直前キャンプ地の候補地視察として栃木県を訪れたオーストラリアラグビー協会所属のコーチ3人が、7月18日、県立佐野高校のグラウンドで、県内の生徒を直接指導しました。

オーストラリアのラグビー代表チームはワールドカップに過去2回優勝するなど、ワラビーズの愛称で親しまれる強豪チーム。その現役コーチ指導を受けるために、佐野や佐野松桜高校などのラグビー部員の男女約80人が佐野高校のグラウンドに集まりました。

指導した内容は基礎トレーニングからキャッチング、タックルなどの基本的な部分。コーチたちは笑顔を見せながら「楽しむこと」「安全性」「基本が大切」といったことを選手たちに指導しました。

